

【開催趣旨】

共同研究「日本列島と朝鮮半島南部の初期都市の比較研究－「国」を越えた社会基盤形成の解明」(2024～2027年、基盤研究C、代表：南秀雄、分担：趙哲済・李陽浩)では、古環境復元を活用し、都市の普遍的な特徴である、機能分化(さまざまなセンター機能の発達)と外部依存(人口を支える必需物資の需給)を指標に、ほかに先がけて都市化へ歩みはじめた日韓の遺跡を直接、比較することによって、中国式の都城制が成立するまでの当地域の初期都市の実態を解明することを目指しています。

前近代の都市は自然環境の影響をつよく受けていました。地域の自然環境にあわせて社会基盤を形成していくことが都市化の道筋ともいえます。近代の国家概念の投影を離れ、これまでにない集住に対応した、生活者・技術者たちの自然環境を活かした工夫の足跡をたどりたいと思います。そこにこそ、世界各地域で初期都市を研究する意義があると考えます。

今回の研究講演会では、日韓の初期都市のなかでもっとも内部の構造が把握されている、韓国世宗特別自治市羅城里遺跡の調査責任者であった許義行先生に、地形環境と初期都市の立地や構造について研究発表していただきます。次に、欧米の研究動向まで広く視野に入れられている李盛周先生に、韓国東南部の初期都市遺跡における土城などの最新の調査研究成果について発表していただきます。通訳は、ジオアーケオロジーの手法で遺跡を研究されている水原大学の張祐榮先生と、朝鮮半島の調査研究動向に詳しい建築史学の李陽浩学芸員が担当します。

暑い時期ですが、各分野の研究者はもとより、関心をお持ちの市民の方々のご参加を歓迎します。

